

まほるば



病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第86号

2008年9月号

【当院は病院機能評価に認定されました】

平成20年7月28日付で財団法人日本医療機能評価機構より当院は病院機能評価の認定を受けました。機能評価受審を決意してからおよそ4年間の取り組みでした。職員が「認定」への目標に向けて心を一つに頑張った成果です。皆で喜びたいと思います。

当院が認定された病院機能評価(Ver.5.0)は、患者様の視点でみて安心・安全・満足のいく医療が行われているかどうかを審査するもので、「良い病院」として病院の本来あるべき姿を求めているものです。審査は6領域からなり、大項目55、中項目162、小項目532の審査項目がありました。これらの審査項目はあらかじめ提示されており、それを全てクリアするために、当院で数多くの取り組みが行われたことは院内の皆さんがよく知るところです。当院で特に不備が目立った事項を整理すると、1)「患者様の権利」に対する職員の意識、2)安心・安全な医療実施のための規程や手順、マニュアルの整備と職員への周知、3)診療録の管理、4)医療の質を向上させる体制の整備、



5) 地域連携・広報活動の活性化、などでした。

問題の解決は、一委員会のできるものもありましたが、多くは、それぞれの職種で話し合っ、あるいは各職種間で議論し、職員が共通の認識を持つことで解決しました。課題をクリアするまでに長い時間を要したことは、それだけの時間、職員が「良い病院」とはどのような病院か、

「良い医療」を提供するために我々は何をするべきか、患者(家族)様の声にどのように応えていくか、などを意識し、考え、話し合ってきたことを意味します。「良い病院にしたい」という気持ちは全職員の心に深く浸透しました。そのことが、今回、病院機能評価を受審し認定を得たことの一歩の収穫であると思います。

さあ、これから当院としては、病院機能評価認定病院にふさわしい病院機能を維持し、そしてさらに高い病院機能を目指すことが重要です。我々なら、それが出来るはずです。

臨床研究部長 泉井 亮

「勇壮華麗・津軽の夏 —弘前ねぶたまつり—」

津軽の夏を勇壮に彩る「弘前ねぶたまつり」、今年も例年通り8月1日(金)～8月7日(木)の7日間開催されました。



前半は雨に祟られ、ねぶたも透明なビニールシートを纏ったの出陣となりましたが、後半は天候にも恵まれ、「残

したい「日本の音風景」100選」に認定された「ねぶた囃」と「ヤーヤドー」の掛け声が、津軽の夏の夜空に響いていました。

今年は全部で81団体が参加、例年にも増して見応えがありました。前面の勇壮な鏡絵と、後面の優美な美人画の対比が魅力の大型の扇ねぶただけではなく、子供ねぶたや小型の組ねぶた等も様々に趣向が凝らされ、各団体ともそれぞれ甲・乙つけがたい出来栄でした。

庶務係 工藤 真叔

—金魚ねぶたのきもち—

「弘前ねぶたまつり」でにぎわった8月上旬、当院の玄関ロビーには10匹の金魚ねぶたが、今年も元気に泳ぎました。

取り付けたときは、正面を向いていたはずなのに、風もないのに、いつの間にか右を向いたり、左をみたり、時には後ろを見たりと、個人行動の目立つ金魚たちでしたが、やがて夜になって、ねぶたの笛や太鼓の音とともに、「ねぶたあーのもんどりこ(ねぶたが

戻ってくる)」のかけ声が聞こえてくる頃になると、不思議なことに正面玄関を向いて、「おかえり」と、ねぶたの山車を迎えているのでした。

庶務班長 中野 喜代美



— 青年共同宿泊研修 —

今回、7月14日～7月18日に福島県の国立磐梯山青年交流の家で行われた青年合同宿泊研修に参加してきました。北海道・東北各地より多職種の方々が参加しており、年齢は20代後半の方が大半を占めています。

研修では他職種の方とのグループ討議があり、様々なテーマについて話し合いました。同世代の色々な意見はとても参考になると同時に色々な事を考えながら業務をしていると驚きでもありました。研修登山をしました。普段では味わうことが出来ない達成感が得られました。その他、短い時間を利用して座禅などもあり、講義で疲れた頭を休ませる時間も設けられています。

研修に参加するまでは、様々な不安がありましたが、研修に参加し、他の病院スタッフと話し、悩みを共有

しながら、多くの事を知り、不安もなくなっていきました。

この研修は、独立行政法人となって3回目になるようですが、普段は他病院の方と語り合える機会があまりないので、今後もこの研修が続く事を希望します。

今回の研修に参加して得たことを、これからの看護に役立てて行きたいと思います。

西1病棟看護師 華園 美穂



市民講座 7月30日「関節リウマチの最新の治療」

関節リウマチは全身の関節に痛みや腫れが起こり、長く続くと関節破壊を生じ機能障害が進んで日常生活に不自由をきたすようになる慢性疾患です。全人口の0.5～0.6%にみられ、日本では60万人～70万人いると言われています。以前には治療が非常に難しいとされていました。

原因はまだ明らかではありませんが、免疫異常を中



心とした疾患と考えられてきています。治療には、4本柱として「薬物」「手術」「教育」「リハビリテーション」が掲げられ多面的な治療が唱えられています。特に薬物療法において進歩が著しく、1985年頃からの抗リウマチ薬の使用、2000年から始まった免疫に関する体内の物質を直接コントロールする生物学的製剤の登場によって、近年では病気の進行を止めることもできるようになりました。また手術によって恩恵を受けられる方もおられます。

当科では、手術はもちろん、最も新しい生物学的製剤による関節リウマチの治療にも取り組んでいます。

副院長 柿崎 寛

☆ 第17回日本母乳の会シンポジウム ☆

耳を覆いたくなるような真夏のセミたちの声に迎えられ、母乳育児推進発祥の地、大阪市の大阪国際会議場で母乳育児シンポジウムが8月2日・3日に開催されました。

昨年は富山市で「赤ちゃんにやさしい病院」に認定され、五十嵐院長とともに晴れやかな気持ちで参加したことが思い出されます。今年の認定式では西日本を中心に10施設が発表され、熱心に取り組み、結果が出たことで充実感とともに出席者の



喜びが全面に出ていました。私たちも昨日の事のように思い出されます。

さて、今回は「母乳育児でつながる・未来・社会」をスローガンに開催されました。当院も長年母乳育児支援と、母乳育児推進活動を行ってきましたが、確かに多くの人々や施設、職種の方々とふれあい協働してきたという実感があります。

これからも多くのお母さんや医療スタッフとともに未来の子どもたちが良い環境で育ったと思ってもらえるような活動をしていきたいと思っています。

小児科医長 野村 由美子
母子医療センター看護師長 杉山 淳子

☆ 一大講評、夏の特別メニュー ☆

土用の丑の日は愛知県産のウナギを使用した【豪華！うなぎ】でした。「病院でうなぎを食べられるなんて思ってもみなかった！」と、患者様からの評判は好評でした。

7月～8月の夏の【特選！麺メニュー】として、冷やし中華、冷梅おろしそば、天ざるそば、冷やし五目うどん、冷ナメコとろろそばと、冷たい麺の数々を提供させていただきました。冷やし中華やざるそばは、生麺を茹で上げましたので、歯ごたえ・のどごしがよく、さっぱりと美味しく仕上がりました。

暑かった夏も終わり、季節は秋です。美味しいものが店先にもたくさん並びます。患者さまの食事にも季節のものを取り入れ、安全で美味しい食事を提供していきます。冷たい麺はもう少し続きますが、秋の特別メニューをご期待ください！

主任栄養士 野呂 直子



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (2008年9月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
総合診療外来		—	—	大串和久	—	—
内科		人見博康	人見博康	人見博康	人見博康	人見博康
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器科		菊池英純 中畑元	佐藤年信 藤田均	佐藤年信 藤田均	菊池英純/藤田均 中畑元	佐藤年信 菊池英純
小児科		杉本和彦 佐藤啓	野村由美子 佐藤工	杉本和彦 佐藤啓	野村由美子 佐藤工	野村由美子 杉本和彦
外科		田澤俊幸 三上勝也	高橋克郎 三上勝也	横山昌樹 田澤俊幸	横山昌樹 高橋克郎	三上勝也 横山昌樹
整形外科	午前	柿崎寛 近江洋 林慶充	柿崎寛 奈良岡琢哉	秋元博之 近江洋嗣	秋元博之 又は 近江洋嗣 加藤幸三	柿崎寛 秋元博之
	午後	—	—	—	—	柿崎寛
脳神経外科		—	—	木村正英	—	—
皮膚科	午前	熊野高行 佐藤正憲	佐藤正憲 熊野高行	佐藤正憲 熊野高行	熊野高行 佐藤正憲	熊野高行 佐藤正憲
	午後	● 予約	● 手術	● 予約	● 手術	● 予約
泌尿器科		大和隆	大和隆	大和隆	大和隆	大和隆
産婦人科		真鍋麻美 工藤香里	片桐清一 田中加奈子	真鍋麻美 工藤香里	● 妊婦健診 (一般外来休診)	片桐清一 田中加奈子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子 高畑淳子	黒田令子 高畑淳子	● 手術 (一般外来休診)	黒田令子 高畑淳子	黒田令子 高畑淳子
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	—	阿部由直 (午後)	—	—	—
麻酔科		● 手術	● 手術	● 手術	工藤明	● 手術
女性専用外来		杉本 菜穂子 (※予約制/第1・第3火曜日午後診療)				
セカンドオピニオン・がん特別相談		—	—	—	今 充	—

※学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

※消化器科は9月3週から再度変更の予定です。

【シリーズ】臨床検査のABC② 「免疫・血清」

抗原が体内に侵入すると抗体ができそれが反応することは以前説明しましたが、その反応に係っているのが免疫グロブリンのIgMとIgGです。まず初めて接触する抗原が体内に侵入すると、IgMが産生されます。これは半減期が5日と短く、IgGほど産生量も少ないのですが、迅速な免疫防御反応に強力な作用を示します。その後、IgGが産生されるとIgMは徐々に減少していきます。

また、IgMには赤血球凝集能もありこれを利用した



検査もあります。これは受身赤血球凝集試験 (PHA) といい、赤血球に検出を目的とした抗原を結合させこれをこの抗原による感染症を疑われる血清と反応させます。もし陽性であれば赤血球と結合している抗原と血清中の抗体が反応し凝集がおこります。

血清は2倍、4倍、8倍・・・と倍々希釈を行いそれぞれと赤血球を反応させどれくらいまで凝集があるかを判定します。その結果は抗原に対する抗体の力を示し「抗体価」と呼びます。現在、マイコプラズマ抗体、ASK、トキソプラズマ抗体などのスクリーニング検査が当院で実施されています。

病理主任 渡邊 拓之

☆ 高校生一日看護体験 ☆

7月25日、朝から汗ばむ暑さの中、近隣、そして遠くは六戸から16名の高校生が集まりました。高橋看護部長から「優れた生活能力がなければよい看護は出来ない」というお話を真剣な面持ちで聞き、その後の須藤教育主事のカリキュラムや新校舎の説明にも釘付けでした。病院内見学では各部門を回り、普段は入れないところをワクワクしながら見学しました。



午後は、憧れの白衣に着替え、各病棟で看護体験が始まりました。足浴を行い、緊張した顔で患者さまに話しかけると、「気持ちいい」と言われてさわやかな笑顔に戻りました。高校生たちの緊張

しながらも心のもった行いが伝わり、握手の手をなかなか離さない患者さまもいました。



参加した生徒からは「看護師になりたい気持ちがいっそう強まった。」「気持ち良いと言われ、うれしかった。」などの感想が述べられました。わずか一日の看護体験でも、その喜びをしっかりと感じ、夢より具体的な目標が変わった様でした。高校生と一緒にお手伝いをさせていただきましたが、私たちも忘れてはいけないものを思い出し、清々しい気持ちになりました。

南病棟副看護師長 上野 恵美

【ふるさと紹介】 ◇三木市◇

出身は？と聞かれるとついつい「神戸です」と言ってしまうのですが、私の生まれ育った町（三木市吉川町）は神戸市のお隣、六甲山の裏側で狸や狐、イノシシが出没するような、青森に負けなくらいのド田舎（？）です。

兵庫県三木市は、古い歴史と自然に恵まれ、播磨風土記には皇子の古代口マンの物語が記されています。戦国時代には別所氏の居城があり、豊臣秀吉の西国攻めで、兵糧攻めという長期戦と戦い、



軍師竹中半兵衛が陣中で没したことで有名です。その後の復興で金物産業が発展し（大工道具・農具）又、三木市と吉川町の合併により、名実ともに山田錦（酒米）との二大ブランドが特に有名です。山田錦は生産量3,000トンを超え、全国一の産地となり、灘の蔵元で清酒となり、全国に出荷されています。一方、市域内を中国及び山陽自動車道が通過するなどして丘陵地を生かし、市内に25ヶ所のゴルフ場が点在し北海道に次ぐゴルフ銀座となっています。

藤田家は代々農家で、現在、父が会社勤めをしながら「週末農夫」として、酒米や野菜を一生懸命作っています。

一度、遊びに来てください。

臨床研修医 藤田 和歌子

【今月の川柳】

★【川柳募集】 あなたの川柳をお待ちしています。

初トンボ 宿をもとめて 日に染まり (タカ)

少しでも かしこくなりたく 市民講座 (T. K)

※掲載した作品は、広報誌編集委員会を選出したものです。

※毎月、第4水曜日地域医療研修センターにおいて、当院職員による市民講座を開催しております。参加は自由ですので、ぜひ参加下さい。

9月24日(水)は、午後5時40分から片桐産婦人科医長の講演が予定されています。

お知らせ

◆ 苦情・相談窓口

患者様やお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談室』のMSW（メディカルソーシャルワーカー）や、院内6か所に設置している『ご意見箱』で対応しています。

なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

発行元 **独立行政法人国立病院機構弘前病院**
Hirosaki National Hospital
責任者 臨床研究部長 泉井 亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>